

日本学校音楽教育実践学会

第27回全国大会プログラム

- ◆主 催 日本学校音楽教育実践学会
- ◆開催日 2022年（令和4年）8月20日（土）・21日（日）
- ◆オンライン開催 東海学園大学（Zoom ミーティング）

■連絡先 第27回大会実行委員会（大会参加に関する問い合わせ）
Email: 27ongakujissen(at)gmail.com (at)は、@に変えて下さい。

■第27回大会専用ホームページ
<https://www.27ongakujissen.com/>

■参加費 大会参加費：4,000円【Peatixによるオンライン決済：8月8日（月）まで】
※会員、非会員、学生どなたでもご参加頂けます。
※事前振込のみ。当日受付はありません。

■参加申込【8月8日（月）までの事前申し込み必須】

【Peatix】によるお申込みのみとなっています。
右のQRコードもしくは下記URLからお申込みください

<https://08082020.peatix.com>

Peatixを初めてご利用される方は、お持ちのメールアドレスでPeatixに新規登録してご利用ください。



参加申込

※大会専用HP（<https://www.27ongakujissen.com/>）からもお申込み頂けます。

■日 程

8月20日（土）

12:00 12:25 12:30 14:45 15:00 17:00 17:45

受付	説明	自由研究 1-5	休憩	課題研究	総会
----	----	----------	----	------	----

8月21日（日）

8:30 8:55 9:00 11:50 13:00 14:30 14:45 16:00

受付	説明	自由研究 6-10	休憩	支部プロジェクト I-II	休憩	フォーラム I-III
----	----	-----------	----	------------------	----	----------------

■参加方法（Zoom ミーティングを用いたオンライン）

- 大会に参加される方は、事前にZoomのアプリを、大会参加時に使用されるパソコンやタブレット等にダウンロードしておいてください。【Zoomダウンロードページ <https://zoom.us/download>】
- 8月8日（月）までにPeatixでのオンライン決済が完了されている方に、【大会専用HP（大会1週間前からパスワードがかかります）】のパスワードをお知らせ致します。
- 各発表者が準備される当日資料は、【大会専用HP】にて、大会参加者のみがダウンロードできるようにさせて頂く予定です。当日、Zoomミーティングのチャット機能を用いた資料配布は致しませんので、事前に【大会専用HP】からダウンロードをお願い致します。
- 全プログラムにおいて、ご自分の発表を含め録画・録音は一切禁止とさせて頂きますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

課題研究

「生成の原理」に基づく音楽科授業における 音楽科の教科内容の体系

その1 「生成の原理」に基づく音楽科の教科内容

本学会では、今年度から五カ年計画で取り組む新しい課題研究のテーマに『生成の原理』に基づく音楽科授業における音楽科の教科内容の体系を設定しました。「生成の原理」に基づく教材研究および実践研究を通して、音楽科における教科内容の体系を構築することを目指します。近年、学習指導要領において資質・能力（コンピテンシー）ベースの教育課程への転換がなされました。この資質・能力は教科内容（コンテンツ）との関わりがあってこそ実現するものといえるでしょう。本学会では「生成の原理」に基づいて教科内容を捉え、かたち・なかみ・背景・技能の4側面で捉えられるという知見を得てきました。次なる課題は教科内容を教育実践においていかに扱うかということになります。そこで1年次は授業研究においてなぜ「教科内容」に注目するのか問題意識を共有し、「教科内容」の授業における具体としての「指導内容」とはどういうものなのかについて授業実践事例を材料としたパネルディスカッションを行います。

司会：横山 真理（東海学園大学）

1 趣旨説明

鉄口 真理子（鳴門教育大学）

2 基調講演「教科内容の体系的性」

西園 芳信（聖徳大学、日本教科内容学会副会長）

3 話題提供

「音楽科の学習指導要領における教科内容」

臼井 学（長野県教育委員会、前文部科学省教科調査官）

「音楽作品にみる音楽科の教科内容」

中島 卓郎（信州大学）

4 パネルディスカッション

「生成の原理」に基づく音楽科授業実践にみる教科内容

西園 芳信（聖徳大学、日本教科内容学会副会長）

臼井 学（長野県教育委員会、前文部科学省教科調査官）

中島 卓郎（信州大学）

大和 賛（京都教育大学附属桃山小学校）

支部プロジェクト

支部プロジェクトの目的は、支部理事が中心になって参加型プロジェクトを企画し、支部から全国に向けて音楽教育実践学にかかわる諸問題を発信し、その解決に向けて全国の会員で実験的に取り組み、その成果を支部に戻して実践に生かす往還関係を目指すことにあります。地域の特色が出ることも期待されます。

I 四国支部

郷土の音楽を教材とした授業デザインに文化的側面はどう位置づけるかー《阿波踊り》の場合ー（小学校）

○ 清水 美穂（徳島県吉野川市立知恵島小学校）

鉄口 真理子（鳴門教育大学）

川内 由子（四国大学短期大学部）

金 奎道（高知大学）

II 九州・沖縄支部

教員養成課程における学生の音に対する感性をどのように育成すればよいか（教員養成）

○ 松園 聡美（中村学園大学短期大学部）

古澤 誠朗（大分県立日出支援学校）

小川 由美（琉球大学）

山崎 浩隆（熊本大学）

フォーラム

フォーラムの目的は、「ある用語を切り口にして、日々の授業を『実践学』としてとらえ直すこと」です。

本学会では、これまでの研究成果、およびフォーラムでの内容に示唆を得ながら昨年『音楽教育実践学事典』をしました。その『音楽教育実践学事典』に掲載されている用語が会場ごとに提示されます。用語にかかわる視点をもって実践ビデオや資料を視聴します。そして、それぞれの考えを交流することで、参加者自らが新たな視点をもって授業実践をとらえ直し、授業にある論理や筋道、関連性を見い出していくことを目指します。ぜひ『音楽教育実践学事典』をお手元にご準備いただき、関心のある会場へご参加ください。

I 4章 「学力と評価」

用語 【鑑賞学習における評価】

チーフ：小栗 祐子（東海学院大学）

II 5章 「教材の動きと開発」

用語 【鑑賞教材】

チーフ：山崎 浩隆（熊本大学）

III 8章 「幼児の音楽表現」

用語 【幼児の表現を育む環境構成】

チーフ：三輪 雅美（名古屋柳城女子大学）

自由研究 1

司会 松本 絵美子 (文京区立誠之小学校)

- へき地校のオンライン集合学習としてのミュージッキングの実践
○壽谷 静香 (美作大学短期大学部)
芳賀 均 (北海道教育大学旭川校)
安久津 太一 (岡山県立大学)
芳賀 真衣 (北海道浜頓別町立浜頓別小学校)
盛田 祥史 (北海道教育大学旭川校学部学生)
- 幼児の音楽的表現時における眼球運動の変化
佐野 美奈 (常葉大学)
- fNIRS を用いた謡の聴取時における大脳皮質前頭前野の酸素化ヘモグロビン濃度長変化の検証
—小学校4年生を対象に—
田村 にしき (鎌倉女子大学)
- T. デノーラの「アフォーダンス (affordance) としての音楽」概念に焦点をあてた音楽実践の展望
松宮 利佳 (福井大学教育学部附属義務教育学校後期課程)

自由研究 2

司会 永松 かなえ (沖縄県うるま市立あげな中学校)

- 図形楽譜づくりの音楽科鑑賞授業にみる学びと共感との相互関連性
兼平 佳枝 (大阪教育大学)
- 教科横断的な鑑賞授業の展開
—児童の音楽嗜好に着目して—
齋藤 理加 (福井県南越前町立今庄小学校)
- 「構成活動」の成立要件を意識した鑑賞授業における教師の働きかけ
宮里 未希 (琉球大学大学院生)
- 鑑賞授業におけるマンガ活用の効果
—個々のイメージの深化と集団における詳細なイメージの伝え合いの成立をねらって—
楠井 征子 (大阪府東大阪市立孔舎衛小学校)

自由研究 3

司会 三橋 さゆり (埼玉大学)

- 保育者養成における実習に向けた音楽活動 II
岸 久美子 (聖徳大学大学院生)
- 保育者養成教育としての対話型音楽授業における学生の思考形成
○小栗 祐子 (東海学院大学)
内田 恵美子 (東海学院大学短期大学部)
- 保育者養成におけるアクティブラーニングの試み
—音楽劇の制作と実演を通して—
若谷 啓子 (帝京大学)
- 保育者・教員養成課程におけるリモート合唱活動の展開
宮澤 多英子 (川口短期大学)

自由研究 4

司会 齊藤 淳子 (川口短期大学)

- 音楽授業における ICT 活用術
—卒業生ネットワークを活用した情報共有—
園田 葉子 (大阪音楽大学)
- ICT を用いた「子どもの歌」の指導とその研究 (2)
—オンデマンド課題による授業外学習への波及—
河合 玲子 (名古屋女子大学短期大学部)
- 音楽科授業における C-Learning 運用の実践
高田 喜夫 (大分県立芸術文化短期大学)
- 情報機器を活用した支援方法による歌唱表現の技能の取得
—情報機器による音声表現の有効性—
佐藤 和貴 (高崎健康福祉大学)

自由研究 5

司会 矢倉 瞳 (四天王寺大学)

- 生成の原理から考える音楽活動の学習マネジメント
桑原 章寧 (貞静学園短期大学)
- 幼児期における感性を育む表現活動の構造
—デューイの直接経験に着目して—
横山 朋子 (畿央大学)
- 幼小接続期における音楽科の在り方 2
—スタートカリキュラム音楽活動の効果—
平出 久美子 (新潟大学附属長岡小学校)
- 音楽活動における遊びの意義と教材性について
森保 尚美 (広島女学院大学)

自由研究 8月21日(日) 9:00~11:50

自由研究6

司会 若宮 由美 (埼玉学園大学)

- 1 日中両国の小学校教員の授業構成から見た教員の資質能力向上に関する研究
—教員養成の音楽科教育の授業改善を目指して—
董 芳勝 (創価大学)
- 2 韓国初等学校における「統合教科」に関する研究
佐藤 真由子 (立命館大学)
- 3 鑑賞学習における文化理解と音楽的思考の機能
—聴き方の変容に着目して—
安藤 江里 (松本大学)
- 4 「伝統や文化」を取り入れた小学校音楽科授業の開発と検討 II
桐山 由香 (大阪青山大学)
- 5 《壬生の花田植》における「音色」と文化的背景の関連
—中学校鑑賞領域の授業の分析—
永井 美由紀 (岐阜県岐南町立岐南中学校)

自由研究7

司会 北尾 祐子 (大阪市立加美中学校)

- 1 なぜ音楽表現における協働的な探究過程が持続したのか
—高等学校音楽科授業におけるギターユニット活動の分析—
横山 真理 (東海学園大学)
- 2 器楽授業にみる表現の生成過程の比較
—小学4年生と中学1年生の場合—
清村 百合子 (京都教育大学)
- 3 音楽科授業での歌唱の中間発表の場における子ども間の関わりの様相
島本 政志 (大阪教育大学附属平野小学校)
- 4 ICTを活用し、主体的・協働的に学ぶ音楽づくりの授業開発
—第6学年「和音の音を使って旋律をつくろう」の実践を通して—
澁澤 宏美 (東京都世田谷区立旭小学校)
- 5 中学校音楽づくり授業における生徒による素材の選択行為の意味
大和 賛 (四天王寺大学・非常勤)

自由研究8

司会 福士 幸雄 (岩手県滝沢市立滝沢南中学校)

- 1 音楽科授業において指導内容を具体化することの効果と意義
前田 直人 (兵庫県姫路市立香呂南小学校)
- 2 「イメージ画」を活用して思いや意図をもって歌う力を養う指導法の提案
—歌唱共通教材《もみじ》を題材とした実践例—
永田 美奈子 (小田原短期大学)
- 3 教員養成における音楽づくりの実践
—図形楽譜の作成から見えた課題—
望月 たけ美 (常葉大学)

- 4 教科教育法における経験の再構成としての模擬授業

衛藤 晶子 (畿央大学)

- 5 外部講師としての指導のあり方 (2)

—地域の小学校における継続した音楽科授業実践を通して—

渡会 純一 (東北福祉大学)

自由研究9

司会 室町 さやか (国士舘大学)

- 1 導入期のピアノ演奏スキル教授法についての提案
堀上 みどり (環太平洋大学)
- 2 保育者・教員養成校の学生を対象とした「弾き歌い」に関する意識調査
—通年の学びから見る学生の意識の変容と今後の課題について—
二宮 貴之 (聖隷クリストファー大学)
- 3 ピアノ初学者への実技指導に関する実践報告
—保育者・小学校教員養成校における効果的な教材作成—
○松井 裕樹 (岐阜大学・非常勤)
山岸 多恵 (兵庫教育大学・非常勤)
- 4 図形認識を利用した初心者の読譜
玉護 真理子 (岐阜大学・非常勤)

自由研究10

司会 洞 孔美子 (広島県立広島特別支援学校)

- 1 入院中の児童における音楽科教育と自立活動の関係について
根本 奈央美 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校)
- 2 中枢・処理機能の障害による学習特性を踏まえた音楽科における「連続性・関連性」の実践課題
—インクルーシブ教育システムを踏まえた言語媒介と学習過程の再考—
尾崎 祐司 (上越教育大学)
- 3 小学校音楽科の授業における聴覚に障がいのある児童への支援について
西沢 久実 (神戸市立神戸祇園小学校)
- 4 重度重複障害児の音楽指導
—楽しく演奏できる楽器の考察—
三浦 弘嗣 (仙台市立鶴谷特別支援学校)